




幸福の僻地

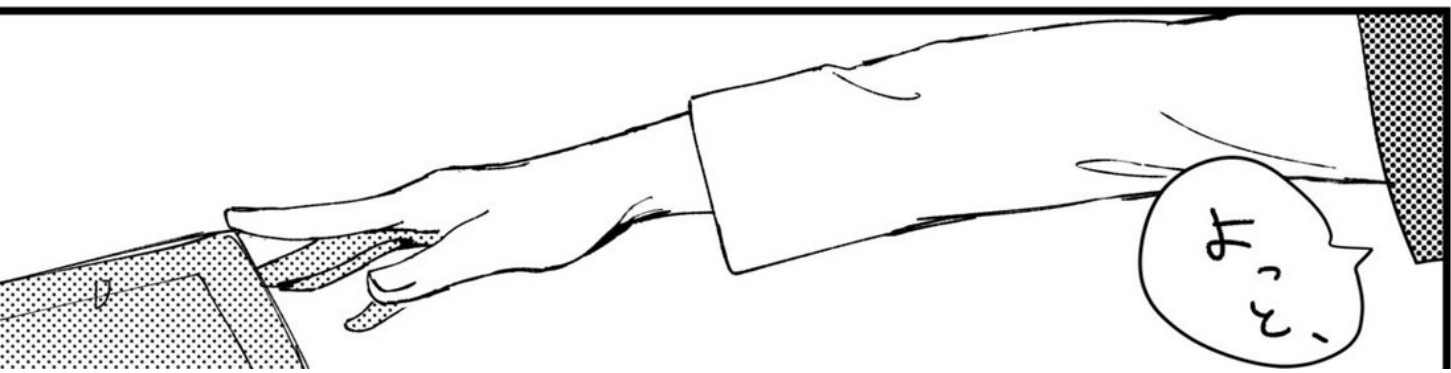
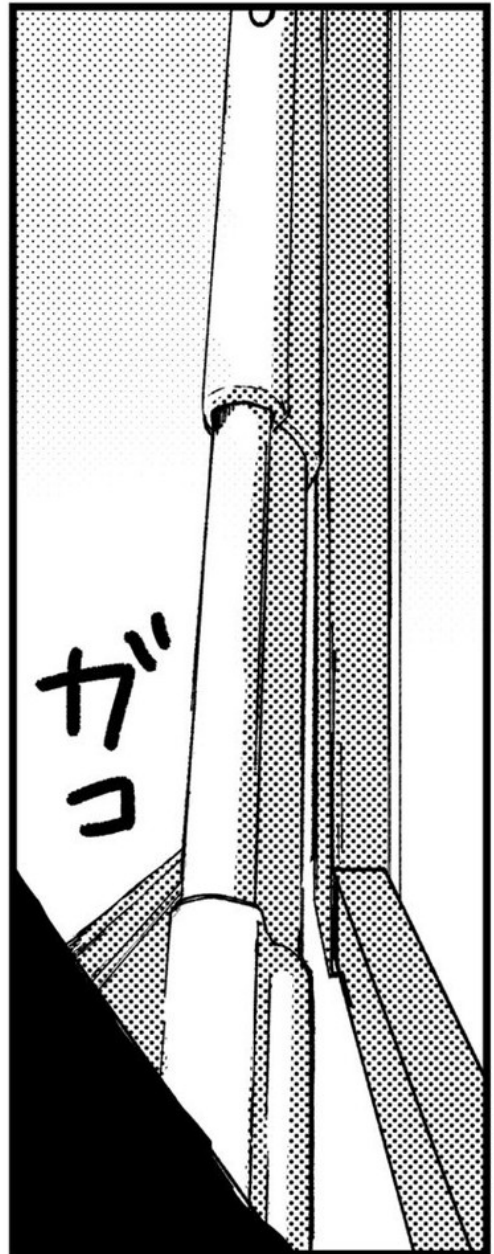
from Pain



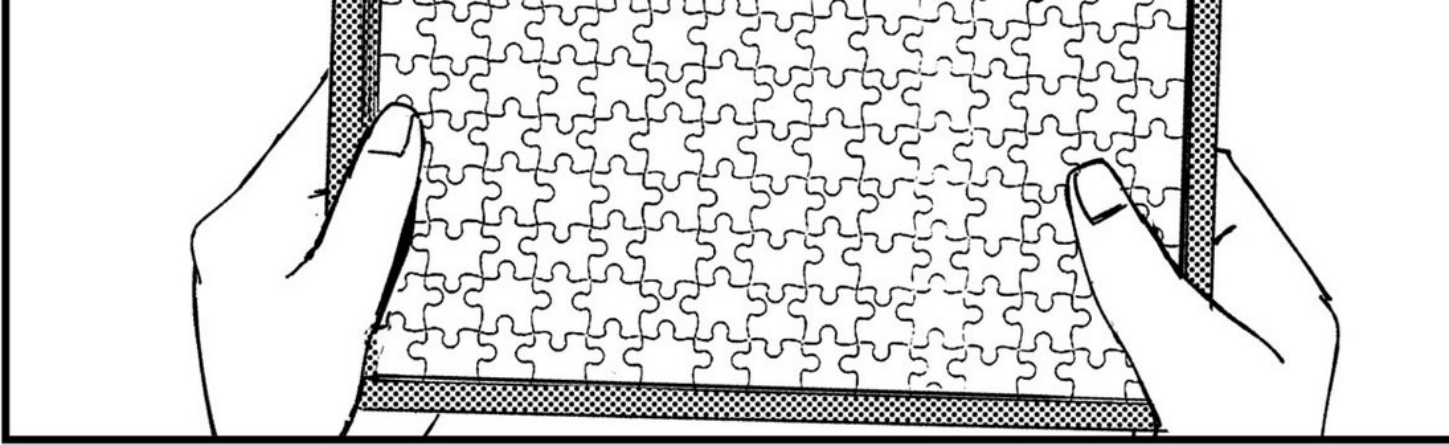


凜月が高2～卒業するまでのはなし  
ズ!!になる前に描きました

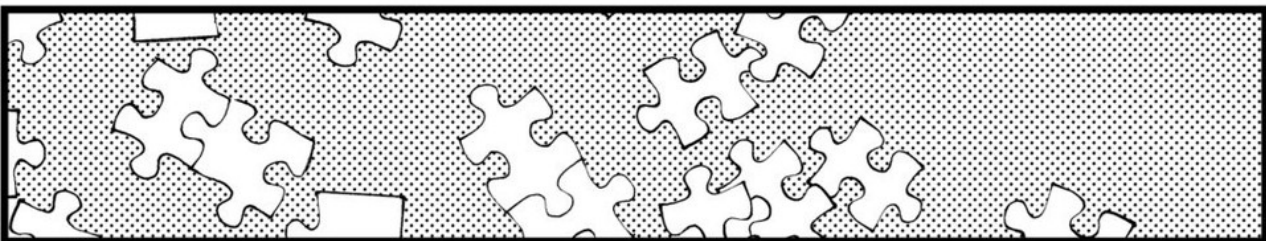
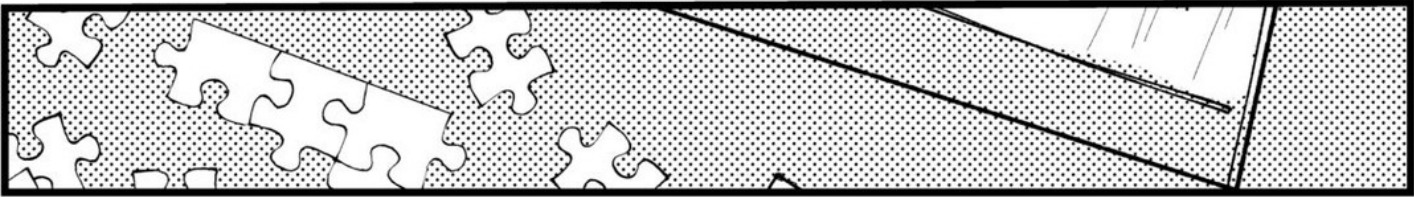


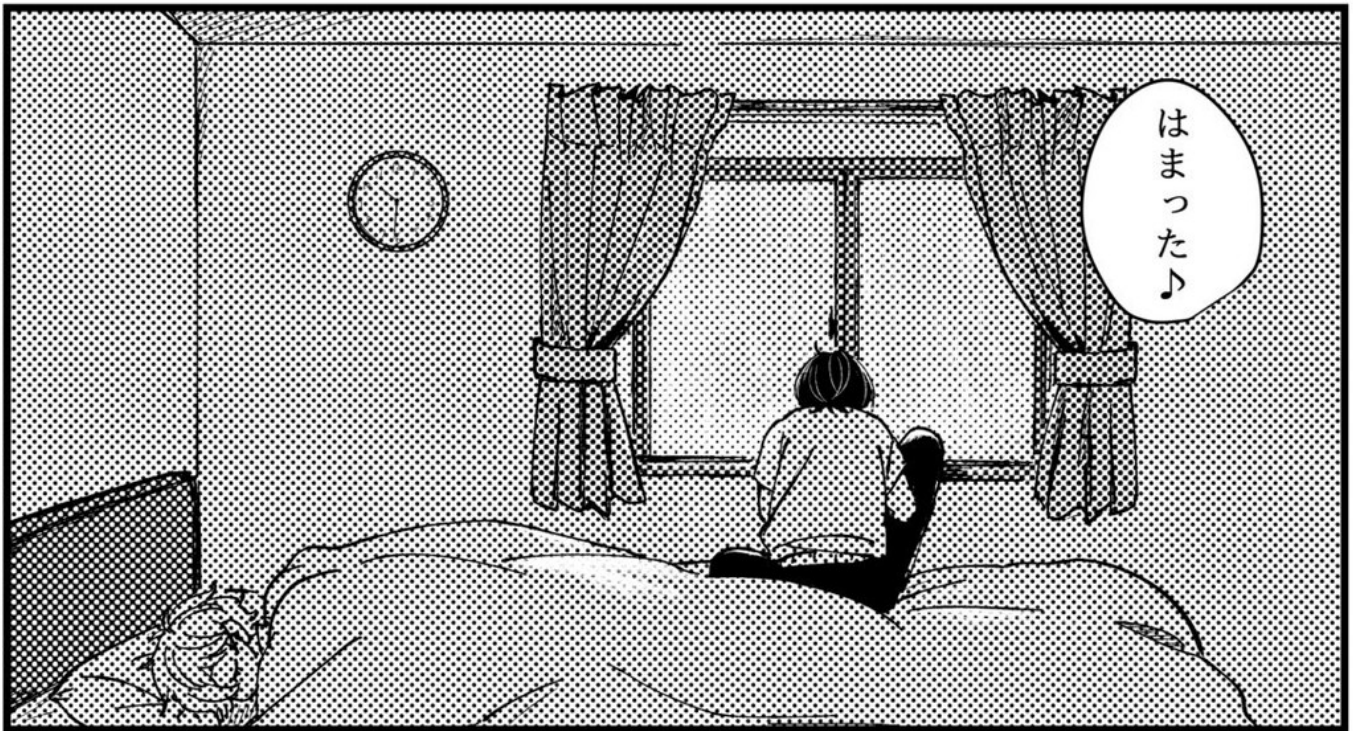
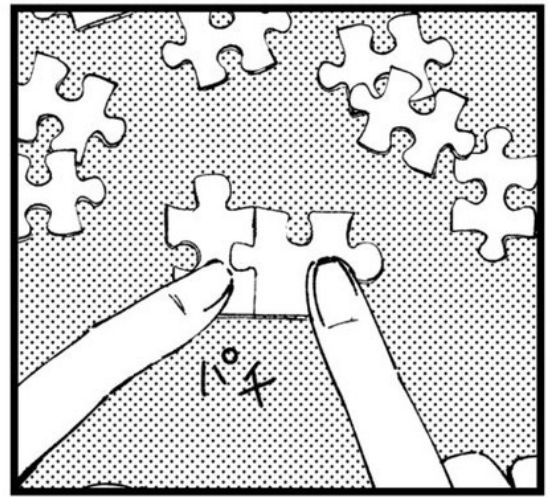






なんだっけこれ







知ってるよお  
支度し終わってから  
連絡来たんだよねえ

ああ、それで制服  
髪までセット  
してあるや

夢ノ咲って本当  
連絡遅いよねえ  
朝から無駄な時間  
過ぎしっちゃった

まあいいじゃん  
二度寝は最高の  
娯楽だよ

てゆうか  
なあにこのパズル  
絵ないじゃん

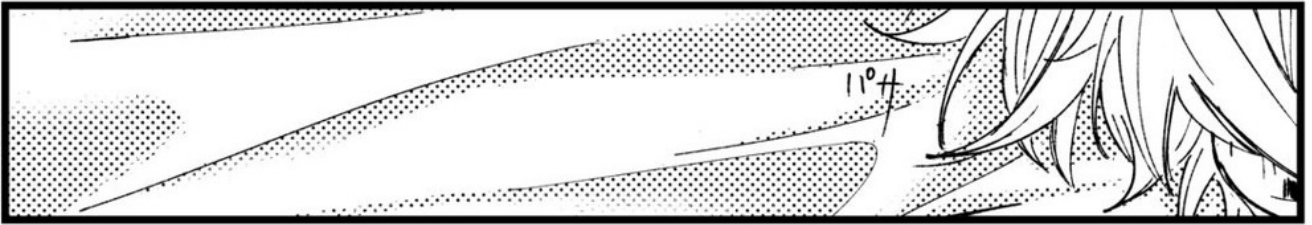
そうだよ  
これができたら  
宇宙飛行士に  
なれるんだって

まく君が  
言ってた

は？

でももう無理  
全然はまんない

わっ









昼間とは思えない  
薄明りの中

肌を合わせる







触れ合うところから  
熱が溶けだして

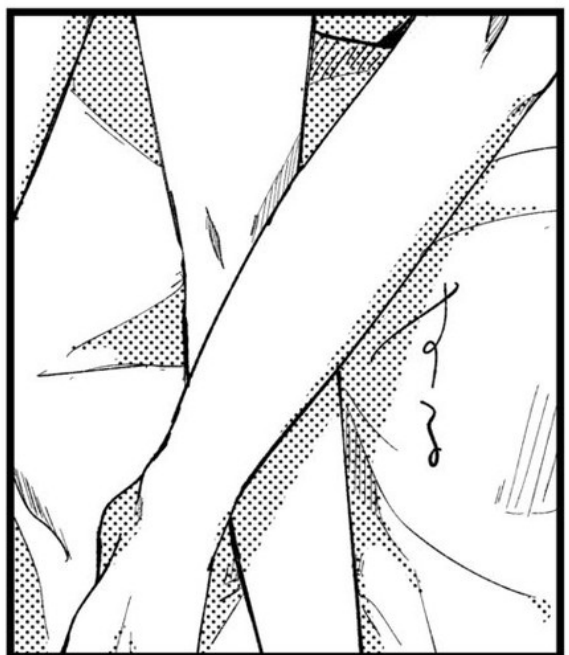
二人の間の  
輪郭がぼやけていく

ひんやりとしていた  
体が徐々に熱くなる



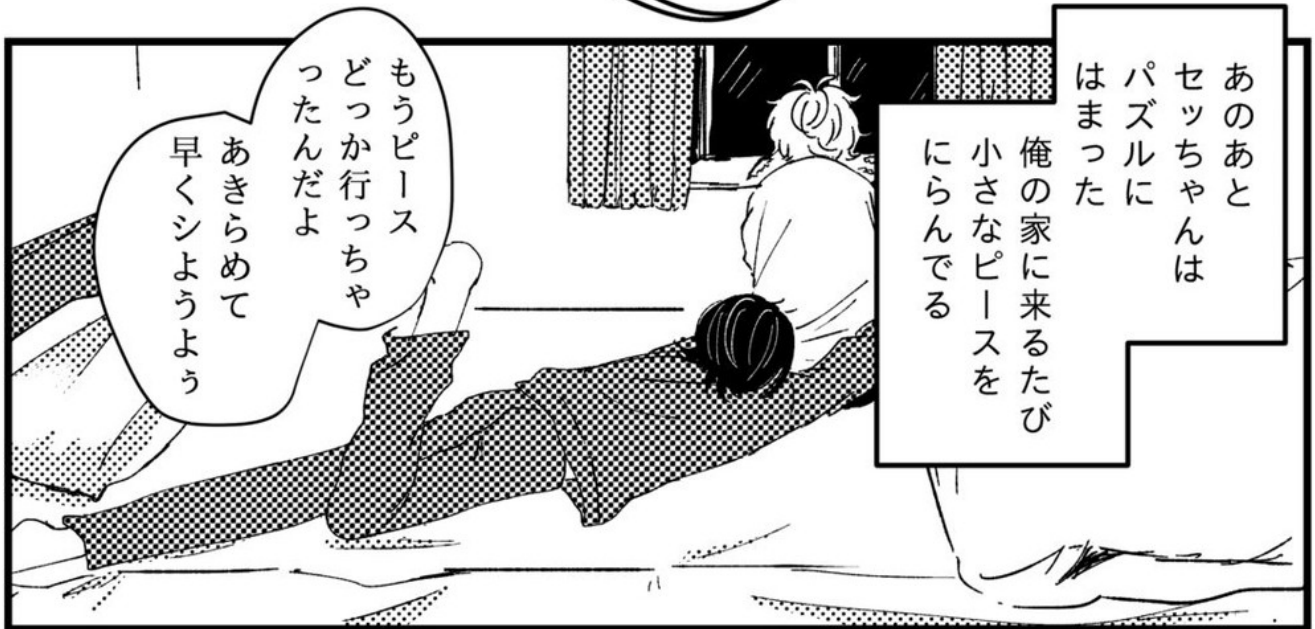
まるで  
かつてひとつの  
魂だったみたいに

ひとつでいることが  
当然に思える





ぜんつつ  
つつつつ  
つつつつ  
見つから  
ないんだ  
けど！



興味なさそう  
だったくせに  
すっかり夢中だ





くまくん



はまったけど…  
寝ちゃったの？

くまくん？



寝込みを  
襲うなんて  
野蛮

お、おまえだろ  
それは！！



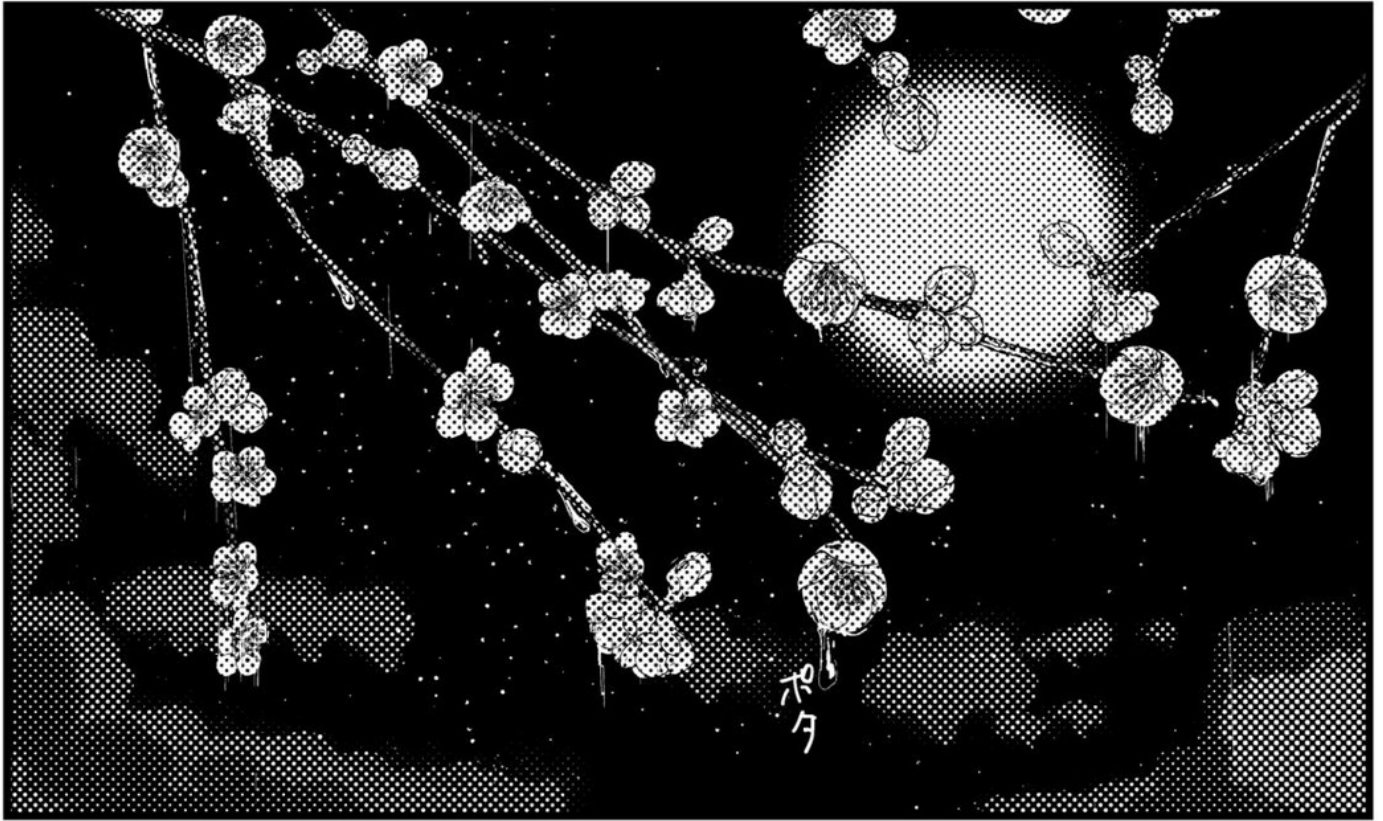
キヤー



ねえ

めぐる季節の中で  
少しづつピースが  
あるべき場所に  
納まっていく

すこしずつ  
すこしずつ



え？





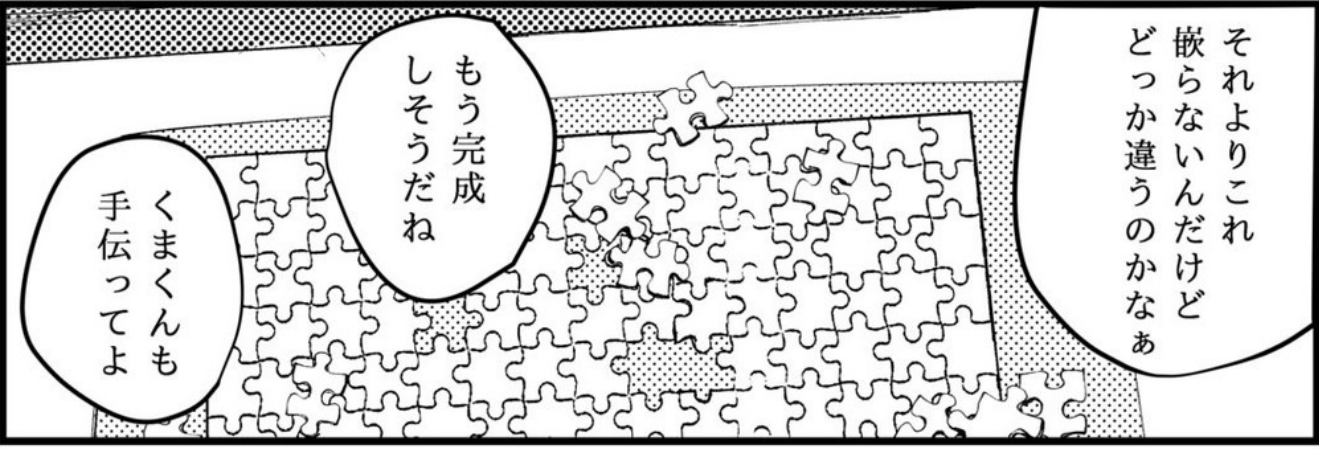
フィレンツェ?



そう  
アイドルを  
やめる気はないけど  
しばらくは向こうが  
基本になるかな

ふうん  
なんでまた  
そんな遠くに…

ちよつと伝  
があつてね  
って言つても  
仕事の援助は  
あまりしてもらえ  
なさそうだけど



それよりこれ  
嵌らないんだけど  
どっか違うのかなあ

もう完成  
しそうだね

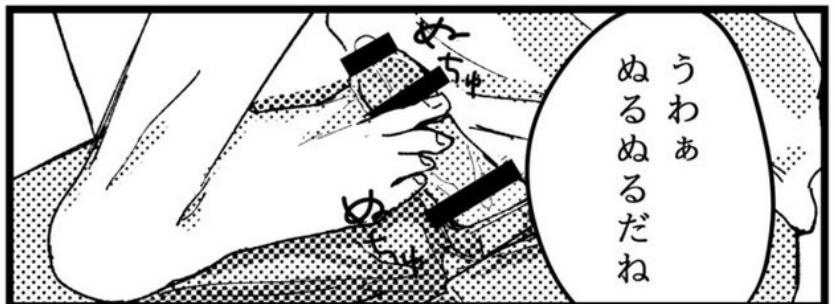
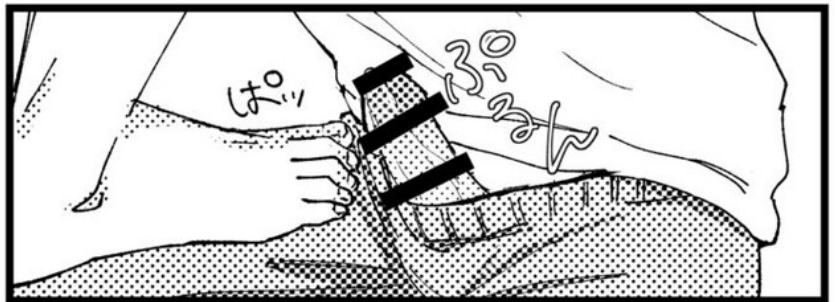
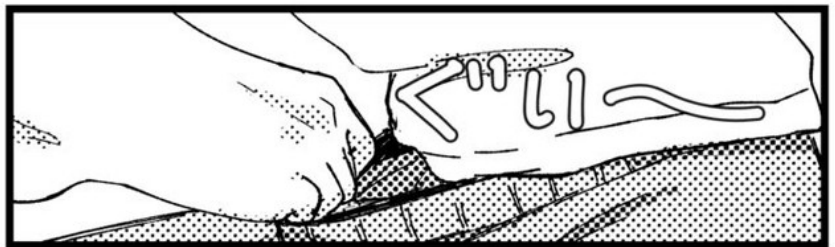
くまくんも  
手伝つてよ

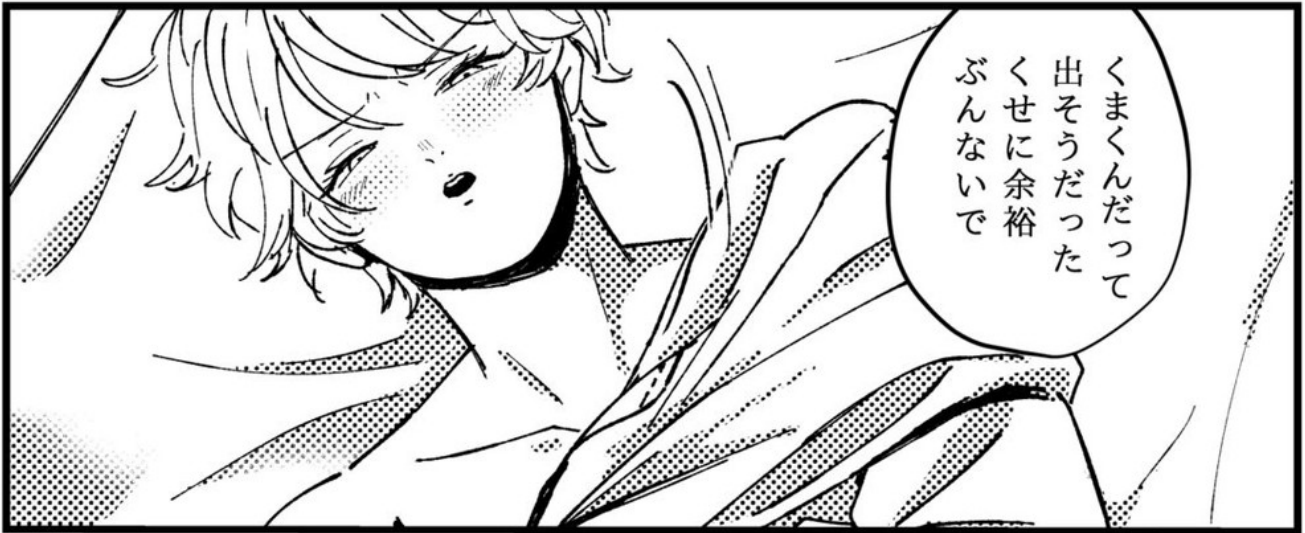




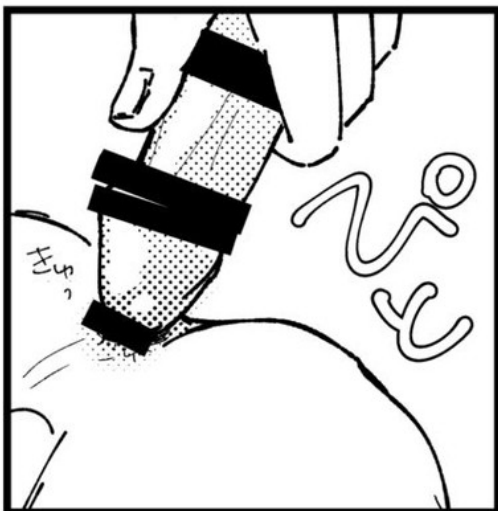
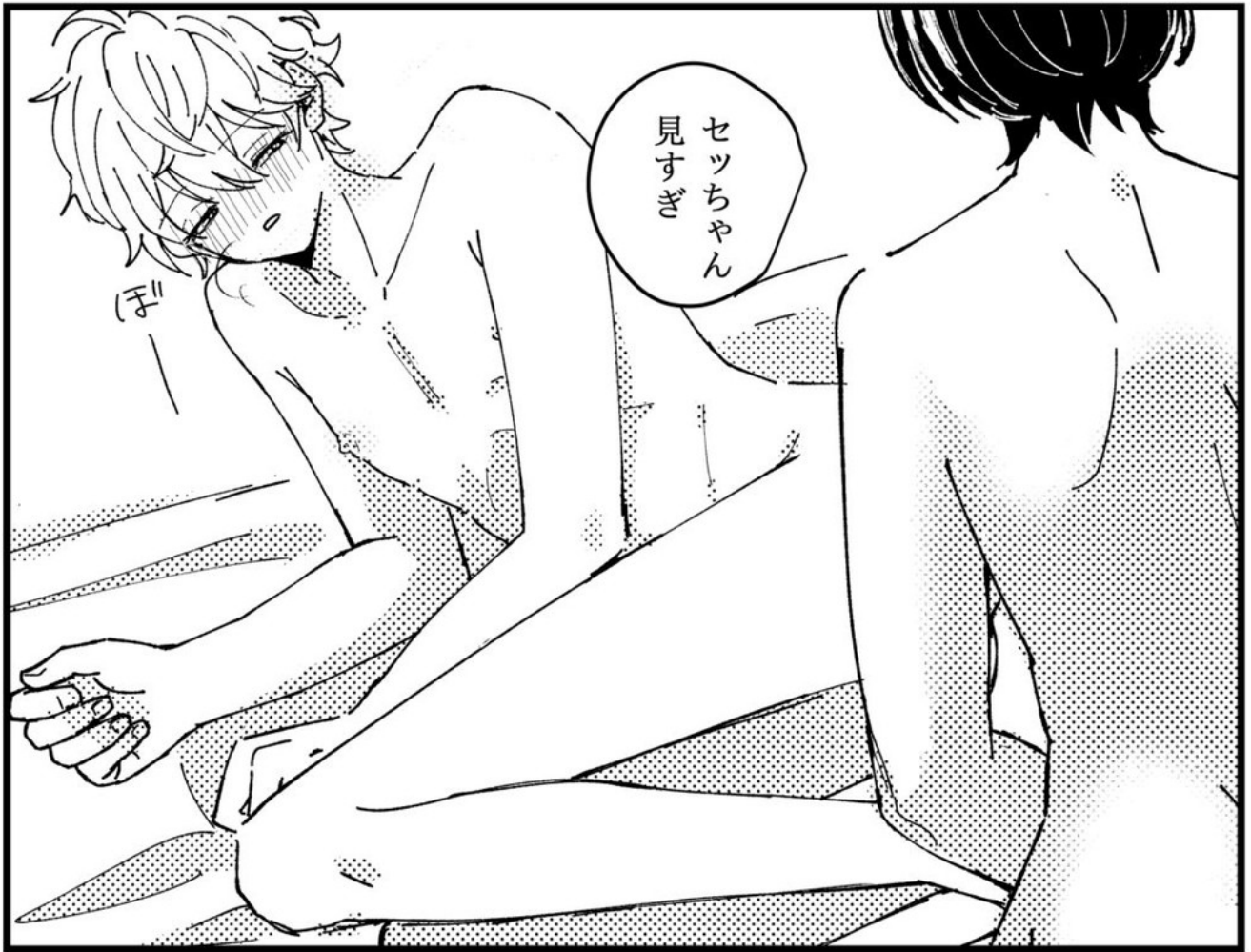
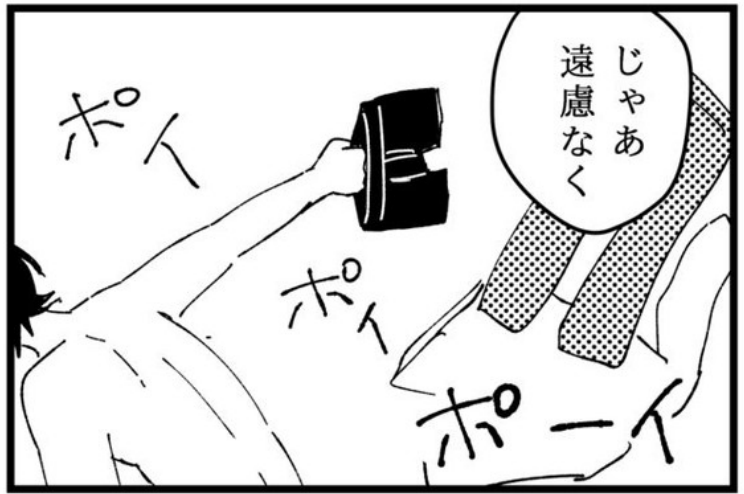


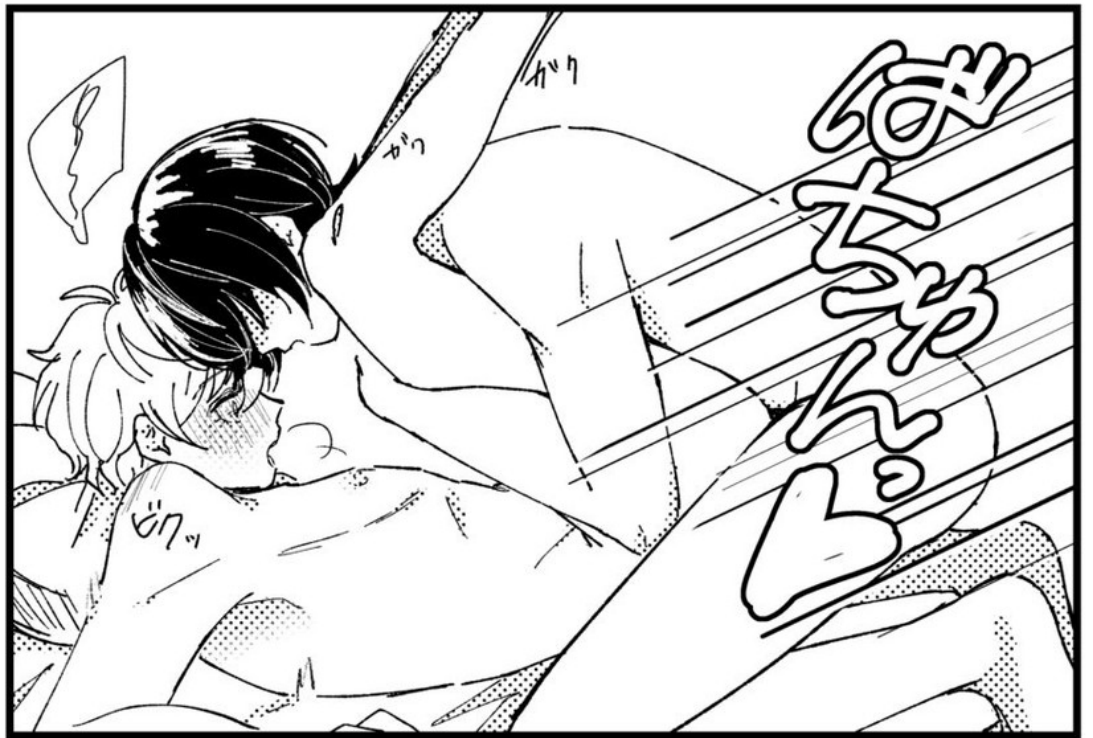
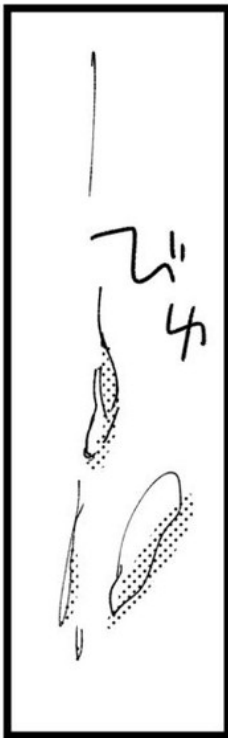






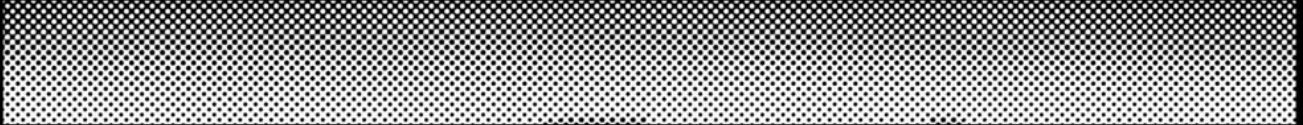
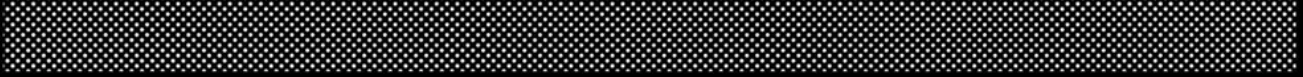










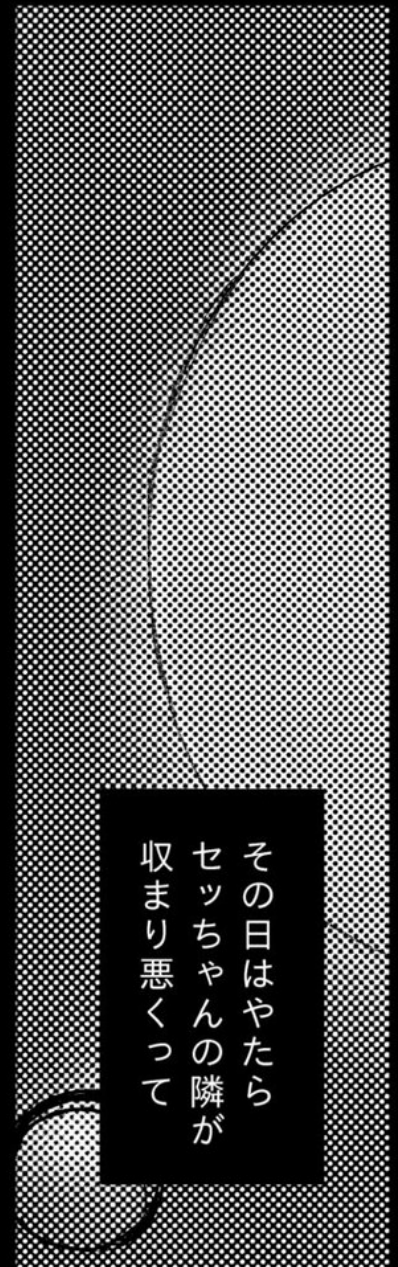




背を向けて  
眠った



ベッドから  
落ちそうなくらい  
端っこによって



その日はやたら  
セツちゃんの隣が  
収まり悪くって



春になった

俺は無事に  
進級して



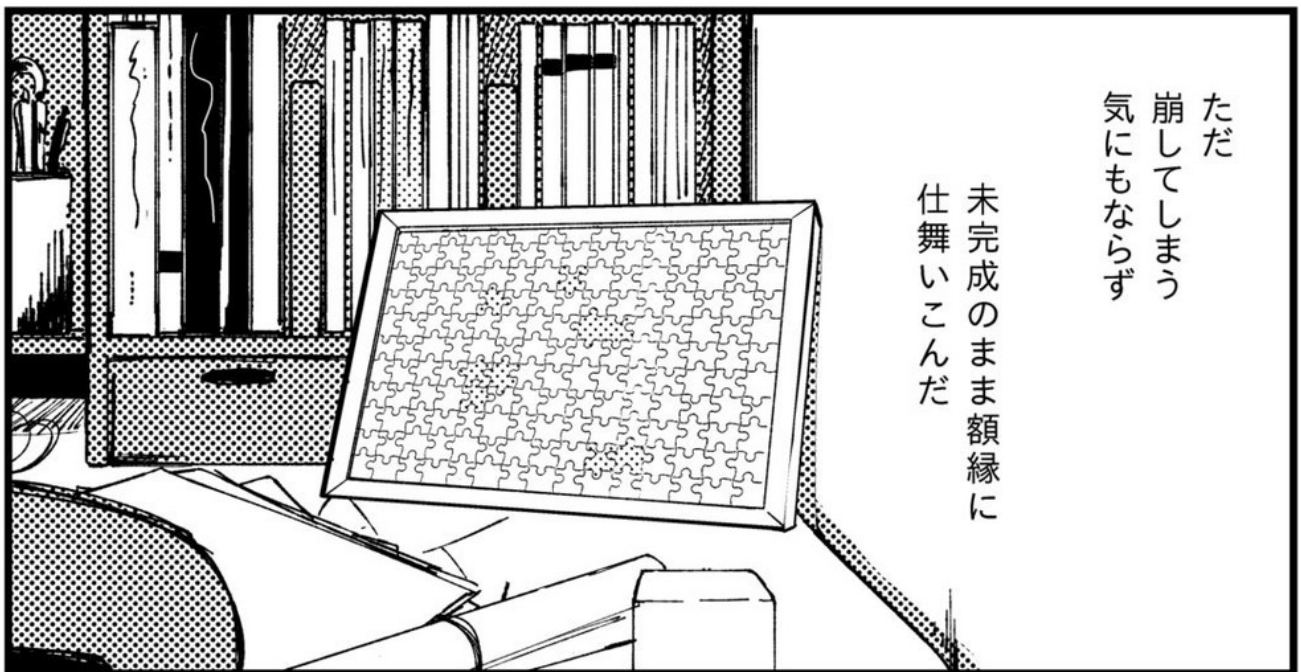
セツちゃんは  
海の向こうへ  
行ってしまった

ねむ

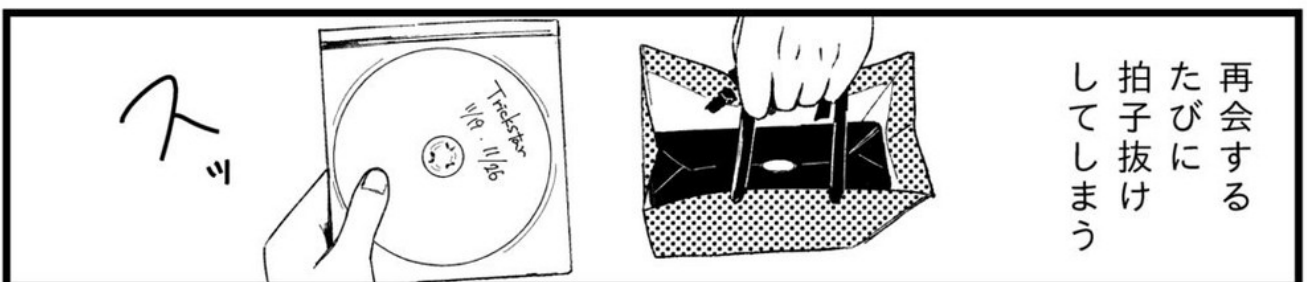
ふみ







季節がふたつ  
ほど過ぎて  
セツちゃんが  
5度目の帰国  
を果たした



どうでもよく  
ないことは  
まだほとんど  
話していなくて



会えば  
どうでもいい  
ことと  
まーくんと  
ゆうくんの話

二人とも  
くっちゃべ  
ってないで  
練習始める  
わよお

あいかわらず  
セツちゃんは  
気安い友達

明日はついに  
我らKnights  
5人そろっての  
久方ぶりの  
ライブです！

最高のもの  
となるよう  
頑張り  
ましょう！

はい

だけど、もう  
セツちゃんが俺の  
家にくることは  
なくなって

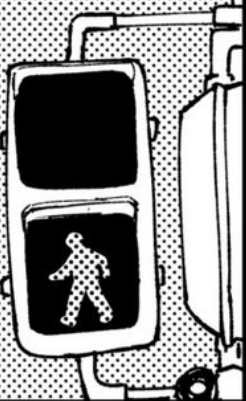
また明日！

お疲れ様です！

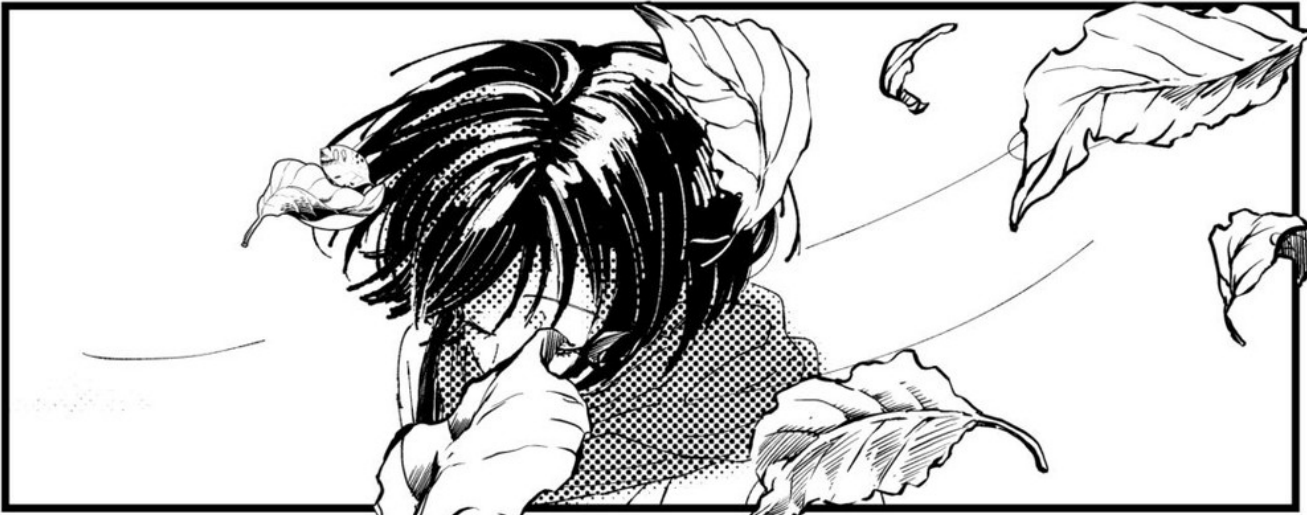
じゃあね〜

キスも  
セックスも  
しなくなった

宙ぶらりんのまま  
終わっちゃった









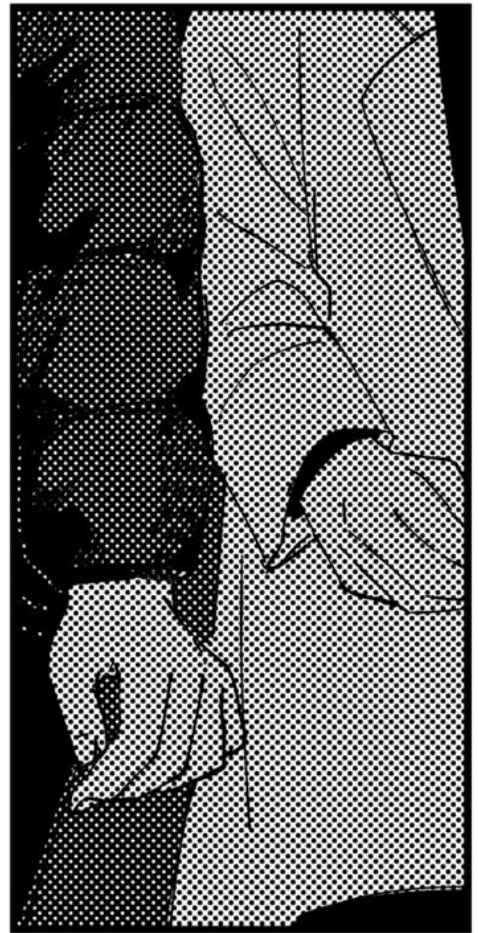
方箇

滞 16Km

滞 15Km

はい、はい、  
申し訳あり  
ません……  
……はい

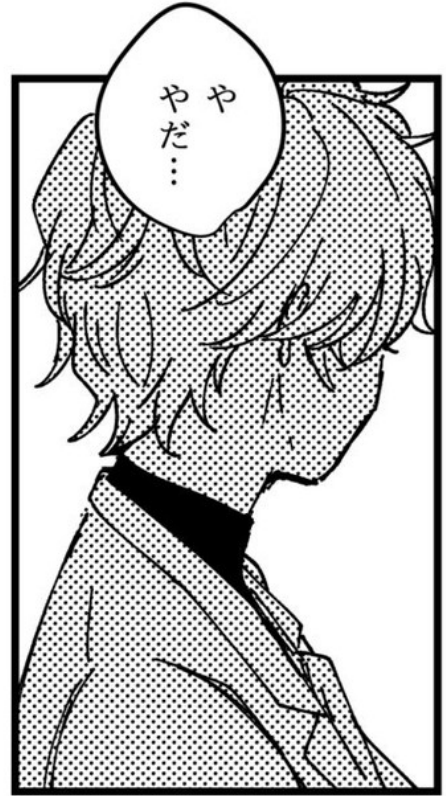








なんで？  
つきぴーはよくて  
俺はダメなの？  
セツちゃんのけち



やだ  
やだ…



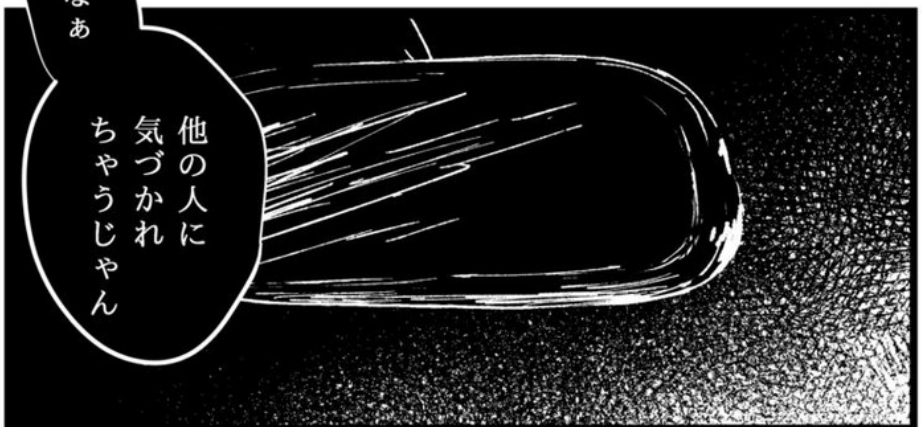
ちよつと！  
起きちゃう  
でしょ!?



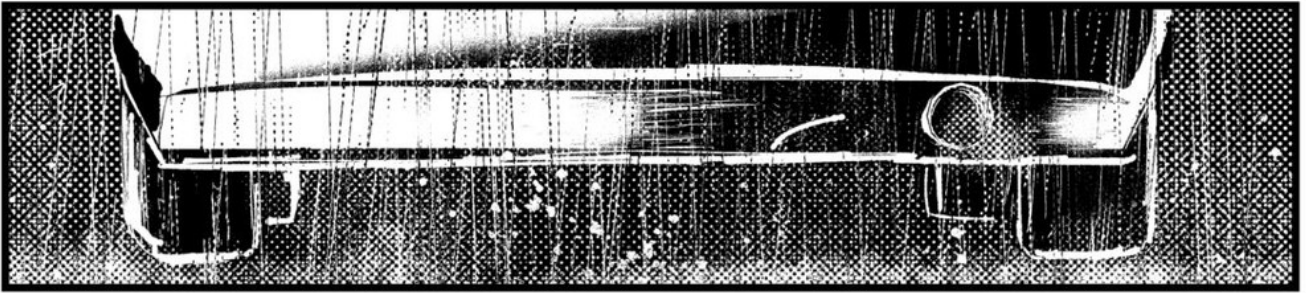
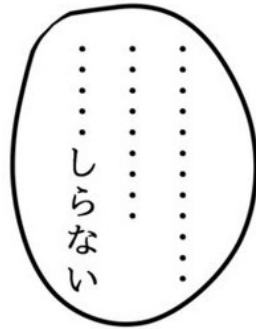
うるさいなあ  
他の人に  
気づかれ  
ちゃうじゃん



お前が仕  
掛た  
んだろ







俺のこと  
好きだった？

あの頃の俺たち  
何を考えて  
いたんだっけ

……  
さあ、  
忘れた

恋なんか  
してたような  
気もするんだけど

そっかあ

一緒だねえ

俺も  
全然思い出  
せないんだ  
本当だよ

離れ離れに  
なっても  
胸は痛まず

平気な顔して  
毎日幸せに  
過ごしちゃった

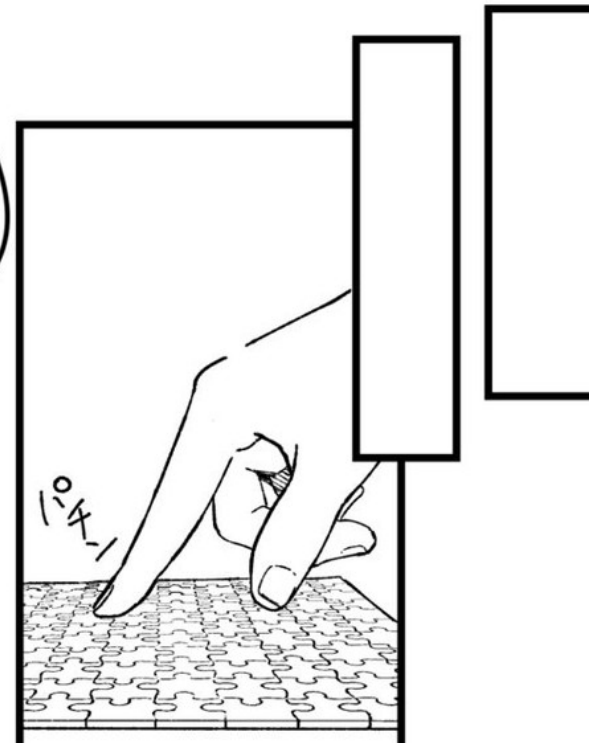
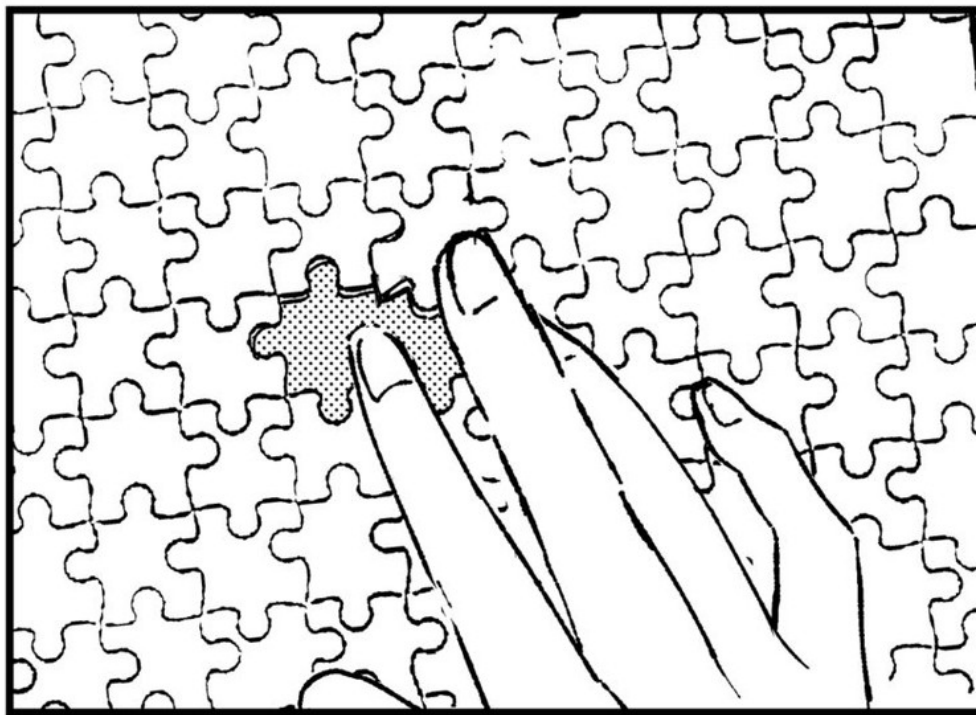
絡めた指先から  
ふたりの輪郭がとろけ  
あうことももうなくて

あの頃を裏付けるものが  
残っていないんだ



欠けていた俺の一部  
だとさえ思っていた  
はずなのに

薄情者め







まちがえて  
やんの

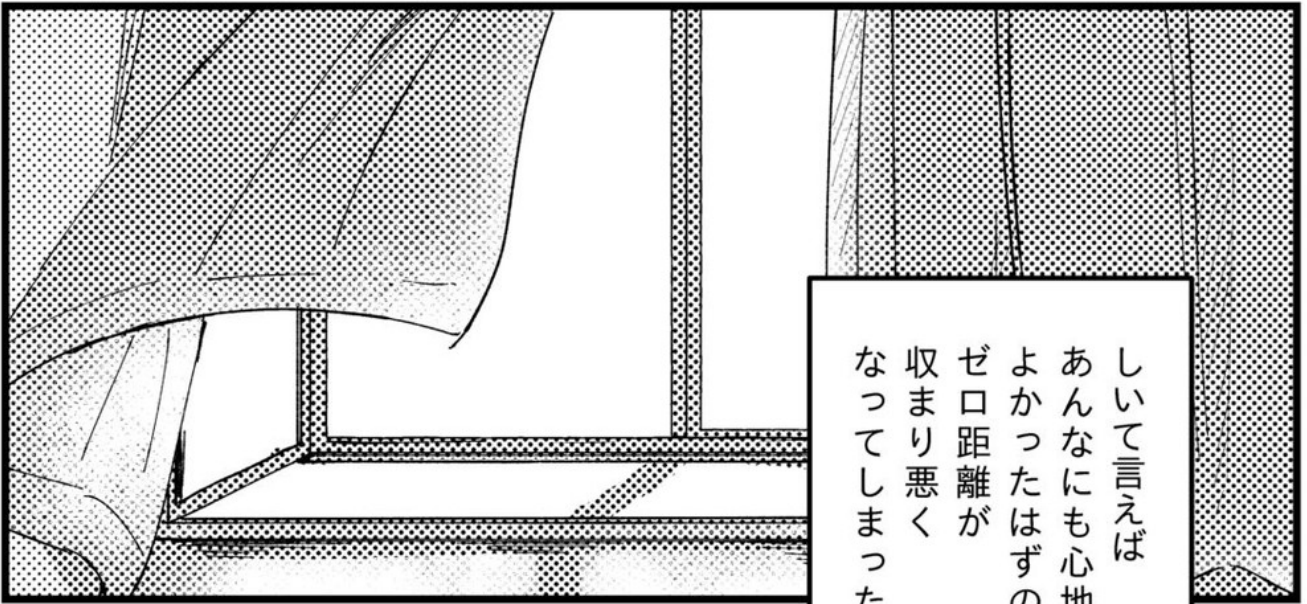
せっちゃんの  
ばるか

どうやら  
はじめから

そうでは  
なかったらしい

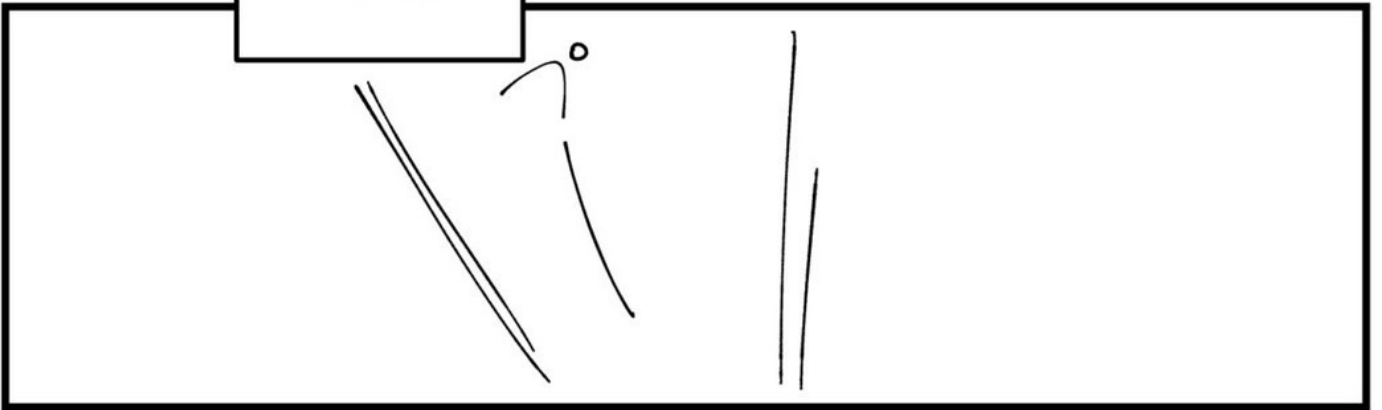
そう思い至っても

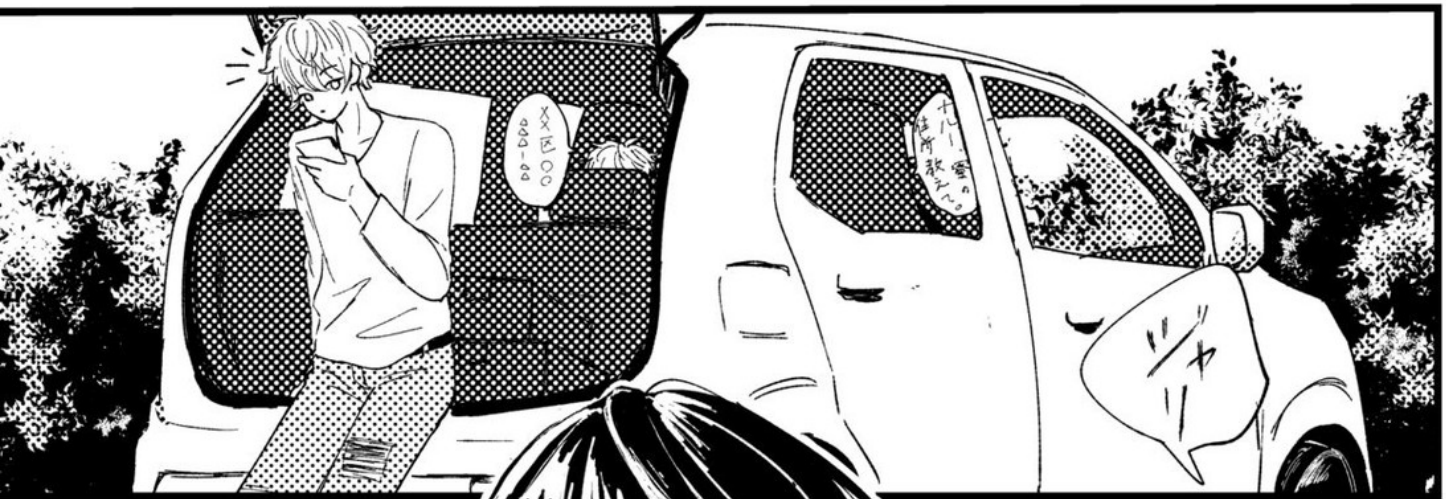
やはり特別悲しくも  
苦しくもなく  
失恋の痛手には  
ほど遠く



しいて言えば  
あんなにも心地  
よかったはずの  
ゼロ距離が  
収まり悪く  
なってしまったことが

お気に入り  
の寝床を奪われ  
たみたいで







すこし寂しい、  
なんてね

